

# 六甲アートタペストリ 人、自然、文化が織りなす道

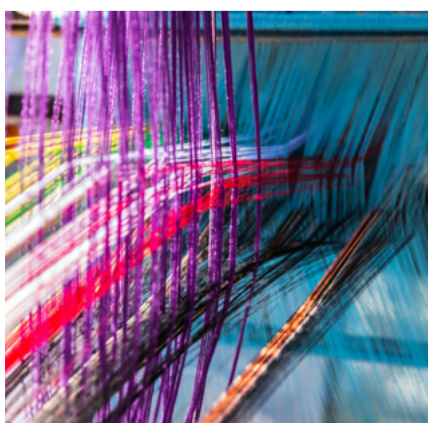


## ■人・自然・文化の繋がりを作る

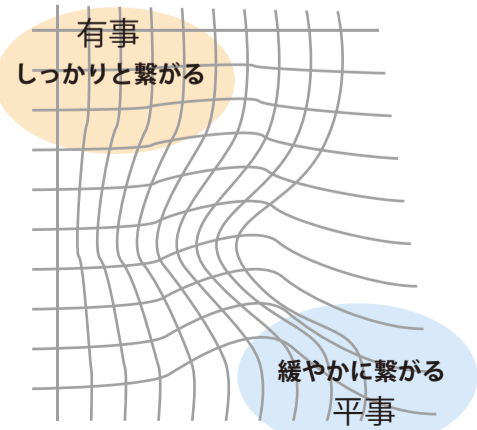
神戸という都市の個性・本質を形づくっている存在である六甲山地。その姿は、まるで市街地へ迫ってくるかのような迫力を持っています。この豊かな景色は、ミュージアムロードがすでに獲得している、最大のアートと言えます。

海へと続く下り坂には山の自然があふれ、人々の暮らしや文化と密接に結びつく。分断や文化の喪失が叫ばれる時代においては、タペストリ※に編み込まれた糸のような、人・自然・文化の確かな繋がりが、大切な価値となります。また、文化活動を通じたコミュニティの緩やかな繋がりは、いつ起こるか分からない災害時のレジリエンスを向上させることにも役立ちます。

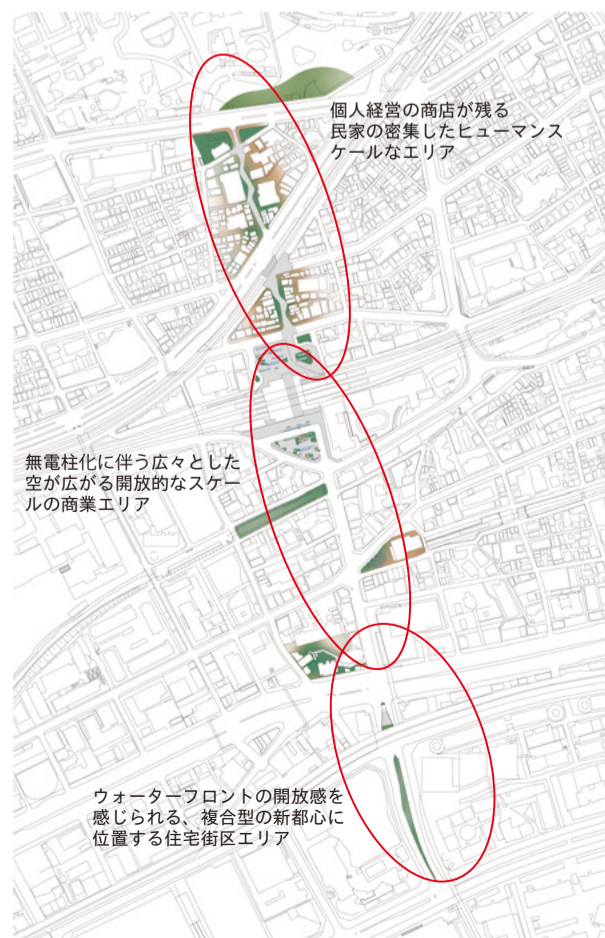
文化活動やクリエイティビティを刺激されるような仕掛けを通して、この街ならではの風景の創出を目指します。



※壁に掛けられる装飾的な織物。糸の素材や編み方によって見た目や手触りが変化することから、「織る絵画」とも表現される。



## ■エリアの個性を活かすことで生まれるネットワーク



対象地は全長約 12km にわたり、東西をつなぐ交通インフラによって分断されている印象を受けます。また、開発のタイミングの違いにより、土地利用や環境条件の異なる三つのエリアに大別されますが、エリアごとの魅力は曖昧です。

本計画では、各エリアを同一のコンセプトで画一的に整備するのではなく、それぞれの特性に応じた役割と表現を設定します。エリアごとの明確な個性を打ち出すことで、もう 100m、200m と足を伸ばしてみたくなるような、一体的な魅力を持つミュージアムロードの形成を図ります。

■エリア全体の考え方

本計画では、王子動物公園からHAT神戸にかけて、人や活動を引き寄せる拠点（マグネットポイント）を設定し南北を移動するきっかけを創出します。どのポイントも、「緑に囲われる」「アートに触れる」「歴史に触れる」といったその場所に行かないと出会えない体験を誘発します。また、南北の空間的連続性を分断している交通インフラも、東西に街を広げることで発展してきた神戸ならではの風景とらえ、視点場の創出や壁面利用による賑わいの創出に繋がります。

マグネットポイント-1



豊かな緑で出迎えるエントランスパーク  
リニューアル後の王子動物園エントランス緑地とつながる緑豊かなミュージアムロードの入り口



歴史と文化を伝える交差点広場  
歴史的建造物である灘駅前拱橋を中心に交差点を広場化します

マグネットポイント-2

マグネットポイント-3



交通の要となる灘駅と、「街全体を美術館化」を掲げる灘駅前広場

東西から集まる人の流れ

近隣緑地との連携（防災・賑わい）

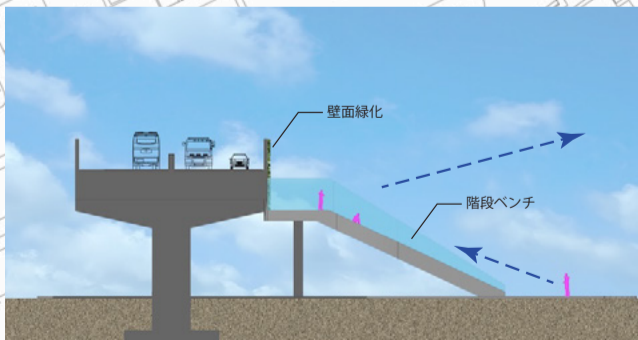
灘駅前線に賑わいをうむことで、脇浜公園側との繋がりや防災/連携の創出も考えられます

マグネットポイント-4



ミカエルカラーで彩られた、阪神岩屋駅

マグネットポイント-5



ミュージアムロードを見通せる特等席  
起伏の豊かな土地の特徴を活かし、六甲山系を背負うミュージアムロードの繋がりを視覚的に感じられる視点場を作ります



■各エリアの考え方



王子動物園前～JR 灘駅



親密なコミュニティが創出する「交流のタペストリ」

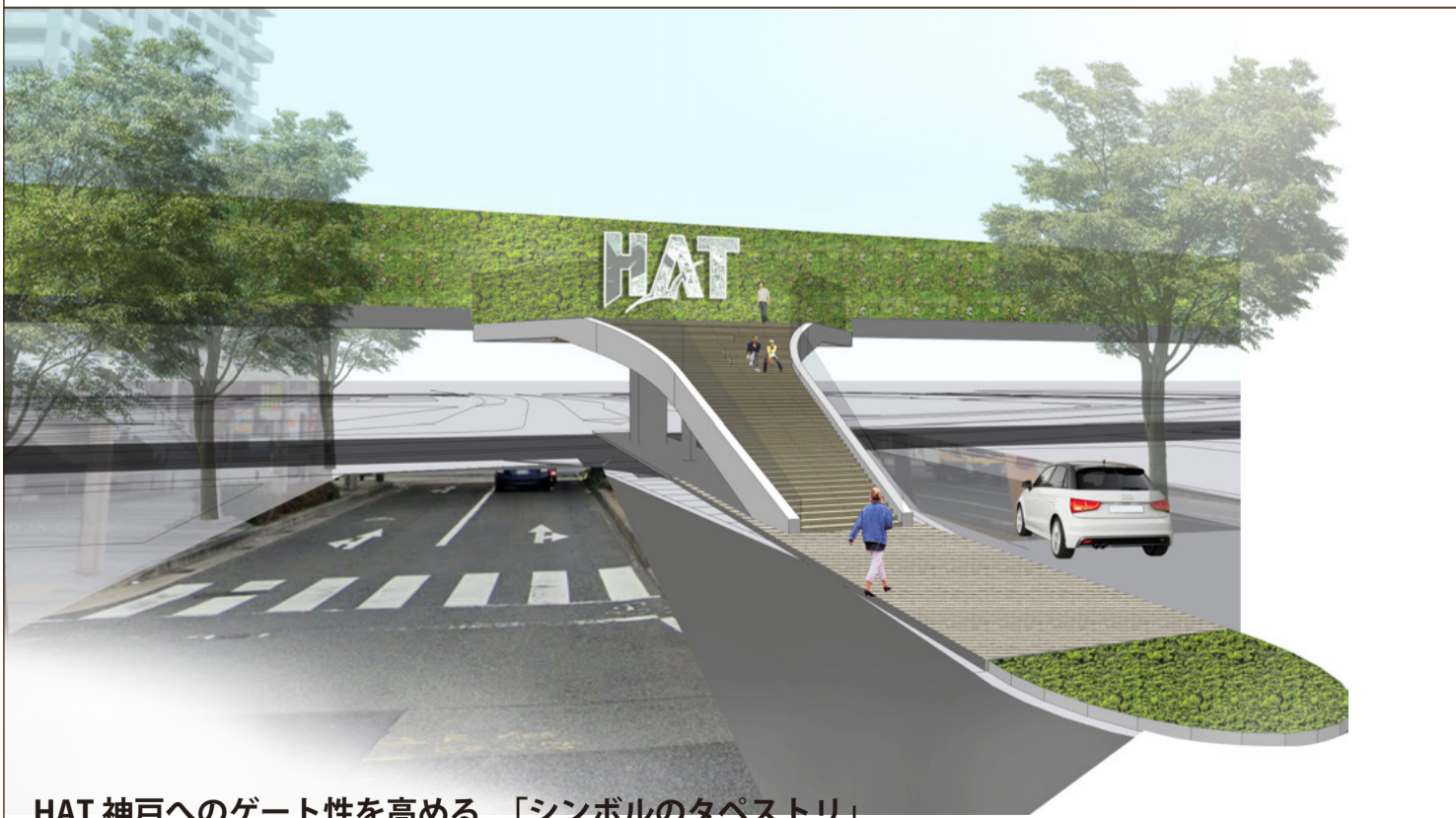
灘駅拱橋高架下や周辺には、今も魅力的な個人経営の飲食店が入居しています。すでに一方通行である神戸市道稗田 20 号線と直行するミュージアムロードも規制をし、歩行者優先道路とします。通常時は一方通行、イベント等が行われる際には通行止めにし、周辺飲食店と一緒にイベントを盛り上げます。



JR 灘駅～BB プラザ美術館

空と緑が寄り添う「居場所のタペストリ」

無電柱化が勧められ、広々とした灘駅前線ですが、南北を移動する人々のスピードは早く、どこかよそよそしい空気が漂います。停車帯を利用したパークレットを設置し、人々の居場所を作ることによって歩く速度を緩やかに変えていきます。緑化ブロックを用いたり、新たな緑地を確保するなど、潤いのある通りを創出します。



BB プラザ美術館～兵庫県立美術館前

HAT 神戸へのゲート性を高める「シンボルのタペストリ」

ウォーターフロントの立地を活かした、神戸の新たな拠点形成として発展している東部新都心地区。美しい風格のある空間のエントランスにふさわしい、「気分が盛り上がる」仕掛けを考えました。みる、みられるの関係が心地よい緊張感を生み、人々の話題に上がるようなゲート空間を提案します。

